杉並区教育委員会指導室

オープンタイプの普通教室等について

現在学校教育には、基礎的・基本的学習内容の確実な定着と、自ら学び、自ら判断して課題を解決できる「生きる力」の育成の両面が求められている。このことを受け、本区においては少人数指導を含む指導法の改善や、独自教材の開発と活用、総合的な学習の時間の充実等を推進している。これらの取り組みを適切かつ効果的に進めていくためには、教員の資質向上、力量形成のみならず、基礎学力の定着や「生きる力」の育成に適した校舎、教室の構造等、環境の改善・充実が不可欠となる。校舎や教室のハード面は、授業内容や方法等のソフト面に多大な影響を与えるからである。

オープンタイプの普通教室については、これまでの実績から「授業が隣接学級の教師や児童の声で妨げられる場合がある」「児童によっては学習に集中することができない」等の課題が提示されてきた。しかし、オープンタイプの教室は、従前のクローズタイプの教室では実現が難しかった、多様な学習形態による授業や、様々な教材を有効活用するためのスペースの確保、学級や学年の枠をはずした合同（交流）授業の実施等、よりアクティブかつ柔軟な教育活動が可能になり、児童一人一人の学びを広げ、深めることが可能となる。

具体的な例として以下のような授業設計、学習展開、指導上の工夫が考えられる。

① 一斉学習、グループ学習、個別学習のスペースを同時に確保し、個々の児童の学びのスタイルや速度にあわせた学習を展開する。

② 周辺スペースに教具や教材を展示して、児童の学習への動機や効率性を高める。

③ ゆとりある空間を利用して、異学年の児童との交流による、教えあい、学びあいの授業を実施する。

④ 学習成果の発表会を他学級と合同で実施し、多様な価値観を共有させる。

⑤ 時間がかかる大規模作品の制作と並行して通常授業を同一スペースで行う。　等

従前の教室における学びは、主に教師が教え、児童が学ぶという「教師⇔児童」の係わり合いにより成立してきた。オープンタイプの教室による授業は、児童同士が学びあったり高めあったりする「児童⇔児童」の係わり合いを実現する。その結果、児童の主体性、積極性、人間関係力、調整力等「人間力」を高めていくことにもつながる。

また、オープンタイプの教室での授業は教師の学習観を転換させ、授業改善、指導法の工夫を促す。これまで教師主導で展開してきた授業を、児童が主体的に学ぶ授業へと転換させなければならないからである。オープンタイプの教室を最大限効果的に活用できる授業を構想・実施することは教師の力量形成を促すことにつながる。

なお、基礎的・基本的な学習内容を個々の児童に確実に定着させていくための取り組みとして、本区においては、小学校４４校中４３校に対して教員を加配し少人数指導を実施している。徐々に成果が現れつつあるが、現状における実施上の課題として、空教室を利用して習熟度別学習を行っている学校がほとんどであり、学ぶ教室が分散してしまう点が上げられる。学校によっては１階と３階で習熟度別指導を行わなければならない場合もあ

り、授業時間内での児童の教室移動が生じた場合、児童の安全管理上の課題が発生する。オープンタイプの教室設計であれば、同一スペースで二つ以上の学習集団を構成し、指導することが可能なため、現在の課題を解決することができる。

　これまで記したように、オープンタイプの教室は多くの利点を有するが、個々の児童が一人でじっくりと考えたり課題に取り組んだりできる、「一人スペース」や、教師が各児童の学習相談に一対一で対応できる「小スペース」等、「オープンタイプの教室の中の個」を保障できる空間の確保や、教室とオープンスペースとの在り方、環境を効果的に活用していくための教師に対する研修等は、今後充分検討していく必要がある。